



昭和石油中央技術研究所 昭和47.4.23.

三河湾国定公園・三谷温泉

千島別荘



昭和シェル発足記念

1985年1月4日



昭和 60 年 5 月 ~ 6 月

(財) 国際石油交流センター (JCCP) の
依頼により、東南アジア主要石油産出国の
技術者を中研にて石油試験分析実習を
行った。 (藤田 稔 提供)



第5回品研会 於：銀座ライオン 平成19年10月12日



鶴巻常務村

優勝盃頂く



S. 54. 12
伊豆スカイライン北7優勝

藤田稔

新装版
愛と青春の追憶

新装版

愛と青春の追憶

藤田 稔

Minoru Fujita

早坂暁氏推薦

素晴らしい青春讃歌。

本書は夢と希望と元気を与えてくれます。

書 評

藤田 稔 著

『愛と青春の追憶』

昔、日本石油、昭和石油、三菱石油の3社の研究所で、3社対抗と称して野球、テニスなどのスポーツ親善試合が行われていた時代があった。テニスの選手としてぐいっとドライブを極端にかける独特のフォームで、賑やかに試合を勝ち抜いていたひととき目立った青年がいた。数年前技術士試験の採点をしていて、滅多にお目にかかれない文意堂々、論理整然、文字秀麗と3拍子そろった凄い答案にぶつかったとき、その内容から答案の主はきっとあの彼に違いないと勝手に決め込んでいた。合格者の中に藤田稔の名前を発見して予想がずばり当たったときは彼の健在ぶりを知って、大変懐かしかった。最高得点で合格したことは言うまでもない。その彼が東京図書出版会の懸賞小説に応募して選に入ったらしいという話を聞いた。それが自叙伝風小説の本書である。一読して彼が文武両道にかくも優れた侍であったかと改めて敬意を表した次第である。彼は広島陸軍幼年学校の最終在生徒、旧制高校、旧制大学最後の卒業生で、私よりは5~6年お若いのだが、あの辛苦の戦争時代と敗戦後から立ち直らせた激動の時代をともに駆け抜けてきて、気が付いてみたら古希を超えていたと言うまさに時代の節目、節目を生きてきた同士であることには変わりはない。彼の学校生活の中で、終戦時広島陸幼生徒時代に夏休みを広島市内で過ごしていたのを、8月5日の夕方偶然のことで市内を離れたために翌日の原爆の難を免れたのは、彼の人生観を変えるような出来事であったであろう。

ともあれ戦後の日本があつた荒廃の中から立ち直って昔よりはるかに豊かな生活を楽しんでい

られるのは、一にかかって日本人の勤勉さと血のにじむような努力で世界水準を抜く優れた工業製品を次から次へと世に出していったからにはほかならない。高アルカリ価船用シリンダーオイルなどもその一例である。硫黄分の多い劣質重油を燃料に使う大型船では排気ガス中の硫酸を中和して、シリンダーを腐食から守り高度な潤滑性を維持し続けるには、それなりの工夫が必要であり、さらに実際に使用してもらうためには長期にわたる実船試験が欠かせない。このあたりの知恵の出どころについて実験室の対話を通じて流麗な筆致で分かりやすく楽しく読ませ、石油会社の研究所生活の一端を知り得て興味深い。この本の白眉は、なんと言っても旧制松山高校生活のかかわりであろう。「理髪師チッタアライン」という短編小説を愚直にも習いたてのドイツ語の知識で翻訳に挑み、脚本を作り、何カ月もかけて稽古をし、記念祭に上演。松山市民にも切符を買ってもらって見てもらい、大好評だったなどは今時の大学生には真似ができないであろう。このときの演劇に凝った仲間のなかにその後演劇を本職に選んだ理科生早坂 暁のような人も出た。著者は松高では通学生だったそうだが、旧制高校の真髄は、リベラルアーツの教育内容と寮生活にあった。そして高潔な倫理観の確立と国を思う高い志を育んできたのである。大学教育にリベラルアーツ教育回帰改革の必要性が叫ばれている中で、高等教育はいかにあるべきかを考えるうえでも、本書は大変示唆に富む読み物である。

(元・日本石油常務取締役、石油学会顧問
鹿島 實)

発行日：2004年1月1日
出版社：東京図書出版会
体 裁：B6版155ページ
価 格：800円(税別)
ISBN 4-434-03647-5